

2018年全日本カート選手権OK部門第9戦・第10戦 2018年全日本カート選手権FS-125部門東西統一競技会
2018年ジュニアカート選手権FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門東西統一競技会 [JAF公認No.2018-2517]

開催日：11月17～18日 開催場所：鈴鹿サーキット国際南コース 格式：国内/準国内 主催：SMSC [クラブ登録No.公認82401]

フォト/小竹充、滝井宏之、JAFスポーツ編集部 レポート/水谷一夫

チャンピオンが勢ぞろい。左からFS-125部門の高口大将選手、FP-Jr Cadets部門の五十嵐文太郎選手、FP-Jr部門の田中風輝選手、OK部門の佐藤蓮選手。

OKクラス 第9戦・第10戦

2018年全日本カート選手権FS-125部門東西統一
2018年ジュニアカート選手権FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門東西統一



チャンピオン確定! 佐藤蓮選手がOK部門2連覇!!

快 晴の鈴鹿サーキット国際南コースで行われた、OK部門2018シリーズ最後の戦い。そのタイムトライアルでは、チャンピオン候補たちの明暗が分かれた。トップタイムをマークしたのは、ポイントランキング2番手の名取鉄平選手。わずかに戴冠の可能性を残す佐々木大樹選手が5番手となり、ブリヂストン(BS)ユーザーがトップ5を占めた。

一方、ヨコハマ(YH)を履くポイントリーダー

一の佐藤蓮選手は6番手。ドライコンディションでの一発の速さは、BS勢がやや勝った。

ここで窮地に立たされたのが、YHユーザーの三村壮太郎選手とBSユーザーの高橋悠之選手だ。三村選手はアタックのタイミングを計っていた最中にエンジンのリード弁が壊れてまともなタイムを出せず、26番手に埋没。三村選手の背後でスリップを狙っていた高橋選手も、このハプニングの余波で20番手に。ふたりはこのポジションからふたつの予選ヒートをスター

トすることとなった。

第9戦の予選では、「他を圧倒する速さを求めていく」と語っていた佐々木選手が、その言葉どおりの快走でポールを獲得。続く決勝でも、佐々木選手は2番手の野中誠太選手を引き離してポール・トゥ・ウィンを遂げた。

その後方で快進撃を繰り返したのが、レース後半の速さに自信を持っていたヨコハマ勢だ。15番手スタートの三村選手は中盤戦からぐいぐいと順位を上げ、野中選手に続く3位でフィ



1,2. 鈴鹿で2戦ともにポール・トゥ・ウィンを飾った佐々木大樹選手。3. ヨコハマが念願のタイトルを獲得し、開発ドライバーの三村壮太郎選手も喜びをかみしめた。4. 今季1勝ながら着実にポイントを積み重ねた佐藤蓮選手がチャンピオンに輝いた。



OK部門Rd.9 / 5.第9戦で表彰台を獲得した皆さん。6.今シーズン最上位の2位入賞となった野中誠太選手。7.三村選手は15番スタートから3位まで登り詰める好走を見せた。



ニッシュ。7番グリッドからのスタート直後に接触されて16番手にドロップした佐藤選手も、4位に上がってチェッカーを受けた。名取選手は7位、高橋選手は11位に入った。

この結果、佐々木、名取、高橋の3選手はタイトル争いからの脱落が決定。ヨコハマが全日本カート参入11年目にして、初めてユーザーからチャンピオンを生み出すことが確定した。

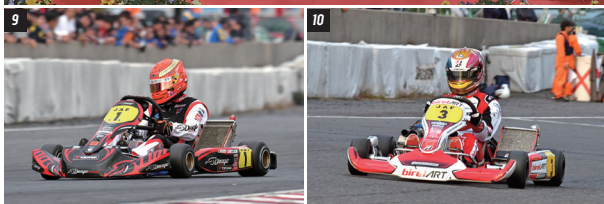
お昼休みをはさんで行われた第10戦。三村選手が逆転タイトル獲得の希望を決勝につなぐためには、予選で6番手以内になることが必要だった。しかし、26番グリッドからの懸命の追い上げは、10番手浮上で時間切れに。ここを3番手でゴールした佐藤選手の2年連続チャンピオン獲得が、決勝を待つことなく決定した。

2018シーズン最後の戦い、24週の第10戦決勝が始まった。スタートでは名取選手が先頭立つが、佐々木選手がすぐにトップを奪い返した。2度目のチャンピオンイヤーを勝利で締め

め括りたい佐藤選手は4番手に着け、ここでもレース中盤からの急浮上を狙う。

そしてレースは、佐藤選手の思惑どおりに進んでいった。佐藤選手は12周目に山田杯利選手を、19周目に名取選手をかかわすと、20周目の最終コーナーにイン寄りから進入した佐々木選手をクロスラインでパスして、トップに浮上する。タイヤ特性の違いから、BSユーザーたちはレース後半が苦しい。佐々木選手は佐藤選手に食ひ下がるのだが、再逆転を仕掛ける力はまだ残っていないように見えた。

だが、佐藤選手より10歳年上の佐々木選手には、豊富な経験とBSの開発ドライバーとしての意地があった。最終ラップ。佐々木選手はストレートエンドの1コーナーを普通のラインで回ると、その直後の2コーナー進入で佐藤選手のインを急襲。静かな追走の中で、タイヤに最後のひと勝負の余力を残していたのだ。勝利を確信していた佐藤選手は、不意を突かれて



OK部門Rd.10 / 8.第10戦で表彰台を獲得した皆さん。9.白熱したバトルを繰り広げた佐藤選手はあと一歩届かず2位。10.TTでコースレコード更新の名取鉄平選手は3位に。



FS-125部門 / 11.決勝では渡会太一選手が8台一列の戦いを積極的にリードして、東地域開幕戦以来の2勝目を獲得した。12.表彰台を獲得した皆さん。13.14.西のポイントランキング首位の清水英志郎選手がトラブルで止まり、まさかのDNQ。同ポイントで東のポイントランキング首位の高口大将選手が、3位フィニッシュでチャンピオンに輝いた。15.2位の三島悠大選手は一番での初表彰台。

佐々木選手の先行を許してしまった。

最終コーナーは、実力者ふたりの読み合いの勝負だ。進入でまたもイン寄りにマシンを振った佐々木選手は、再びクロスラインでの逆転を狙う佐藤選手のプランを読み切ってそのラインを巧みに潰し、派手なガッツポーズでフィニッシュラインをまたいだ。

「勝って終わりが良かったけれど、今年タイヤがヨコハマになって、その開発に携わって、チャンピオンを獲れたことには意味があった。身になることの多い1年でした」と佐藤選手。2019年はフォーミュラ専念を口に出している。

「抜くのはあそこしかなかった。後半はタイヤが厳しかったけれど、ワンチャンスに賭けていました」と語る佐々木選手は、最大目標のチャンピオンこそ取り逃したものの、1大会を欠場しながら8戦中4勝を挙げ、雨に翻弄されたSUGO大会以外はすべて表彰台と、素晴らしい活躍を見せた2018年だった。

FP-Jr部門 / 16.大集団の熱戦を制したのは洞地遼大選手。第3戦からの参戦で4戦3勝の活躍。17.表彰台を獲得した皆さん。18.山越ヒュウ選手が3位となった。19.20.チャンピオン候補の佐藤凌音選手と田中風輝選手が横一線でフィニッシュ。わずかに先着した佐藤選手にはフロントカウルのペナルティが下り、田中選手が2位とチャンピオンを手にした。



FP-Jr Cadets部門 / 21.決勝のスタート直後から続いた4台一列の接近戦から、残り3周で近江川暖人選手がわずかに抜け出し、参戦2年目での初優勝を達成。22.表彰台を獲得した皆さん。23.迫隆真選手が3位となった。24.豊島里空斗選手も2位で初表彰台に。25.ポイントを大きくリードしていた五十嵐文太郎選手は12番グリッドから順位を上げ、7位フィニッシュで王座に就いた。

